

楽しい自転車の使い方について話してみませんか！！

# 第3回 ひろしま自転車トーク2008

参加費  
無料！

みんなが乗っている身近な乗り物「自転車」。そんな自転車の楽しい使い方や便利な利用の仕方についていっしょに話してみませんか。

## ■ 開催日時

平成20年12月6日(土)  
13:30~16:30 (開場 13:00)

## ■ 会場

広島市まちづくり市民交流プラザ/5階  
マルチメディアスタジオ

## ■ プログラム

- 13:30 <開会挨拶>  
佐伯 達郎 建設コンサルタンツ協会中国支部
- 13:40 <第1部 講演>  
福島 晋一 プロサイクルードレース選手(梅丹本舗・GDR・アキップアサダ所属)  
基調講演「ツール・ド・フランスを目指して」  
石丸 英明 自転車遊び総合研究会  
基調講演「自転車遊びを通して」  
高田 禮栄 建設コンサルタンツ協会中国支部  
活動報告「自転車まちづくり研究会活動報告～広島現状～」
- 15:00 <休憩>
- 15:15 <第2部 自転車トーク>  
■パネリスト  
若狭 利康 広島市中心部商店街振興組合連合会青年部 会長  
土井 小七郎 自転車専門店 サイクルフォーラム マネージャー  
福島 晋一  
石丸 英明  
■コーディネーター  
加藤 文教 建設コンサルタンツ協会中国支部
- 16:25 <閉会挨拶>  
長谷山 弘志 建設コンサルタンツ協会中国支部



## ■ 主催

(社)建設コンサルタンツ協会中国支部

## ■ 後援

広島市、(社)土木学会中国支部、(社)日本都市計画学会中国支部

## ■ お問い合わせ・申し込み先

(社)建設コンサルタンツ協会中国支部(第3回ひろしま自転車トーク2008 担当)  
住所:広島市中区鞆町5-1(株)福山コンサルタント 担当:山本・中村  
電話:082-502-8801 FAX:082-502-8815  
e-mailアドレス:bicycle@fukuyamaconsult.jp



2008年12月6日に広島市中区で開催された「ひろしま自転車トーク」のチラシ。

わらしべ企画の真骨頂、他のトーク企画で発表の機会を得ました。

## 自転車遊び実証実験のまとめ

### および

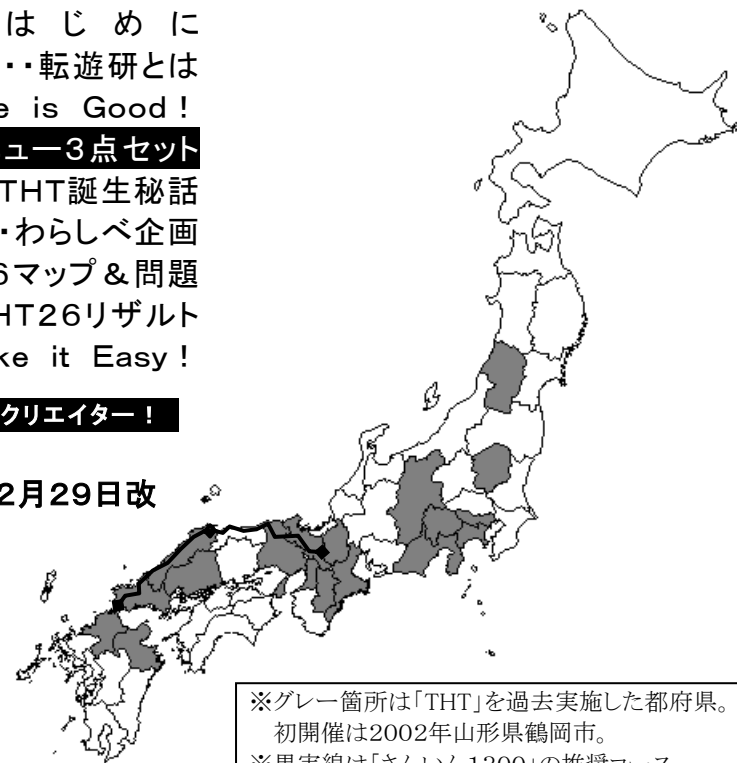
## ～転遊研2009企画提案～

『Bike is Good!』から『Bike it Easy!』へ  
ツーリングコンペティション・メニュー3点セットの継続

- P2.....はじめに  
P3.....転遊研とは  
P4.....Bike is Good!  
P5.....**メニュー3点セット**  
P6.....THT誕生秘話  
P7.....わらしべ企画  
P8.....THT26マップ&問題  
P9.....THT26リザルト  
P10.....Bike it Easy!

**求む! コースクリエイター!**

2008年12月29日改



※グレー箇所は「THT」を過去実施した都府県。  
初開催は2002年山形県鶴岡市。  
※黒実線は「さんいん1300」の推奨コース。

ひろしま自転車トーク2008

# 自転車遊びを通して 自転車も安心して走れる場所はどこ？

Bike is Good!  
自転車遊び総合研究会  
石丸 英明

※この囲みは各ページとも「第3回ひろしま自転車トーク」で使用した資料の補足です。

§ 自転車の遠乗りと自転車遊びは同じ響きを持っています。自転車の遠乗りはサイクリングに他ならないと思います。しかし、自転車遊びとサイクリングの間には微妙な差異があるようです。

§ 「自転車も安心して走れる場所」とは、歩行者、自転車、自動車など、全ての交通に対して“道”が優しくなることだと思います。自転車遊び総合研究会(転遊研)の目指すところは、日本の風土に合ったみんなで楽しめる自転車遊びを探りつつ、自転車でも安心して走れる場所を増やすことです。

～はじめに～

2008年後半、自転車に更に更に追い風が吹きました。しかし、乗る環境の整備や、楽しむソフトの充実が追いつかない現状もあります。

転遊研(自転車遊び総合研究会)では、2005年春より「実験企画」として、日本の“特徴”を再分析し、進化や変化する日本の“実情”に合った自転車遊びを模索してきました。

その結果、サイクルオリエンテーリングを變形させた「THT26」という自転車遊びを仲間と共有するに至りました。もちろん未熟な部分はありませんが、外部からのジョイント企画の問い合わせもありました。そのひとつ「ひろしま自転車トーク」の資料を使いながら、これまでの実証実験の経過報告と、2009年以降の可能性を更に考えてみました。

## THT26の可能性

(サイクリングと日常利用の接着剤)

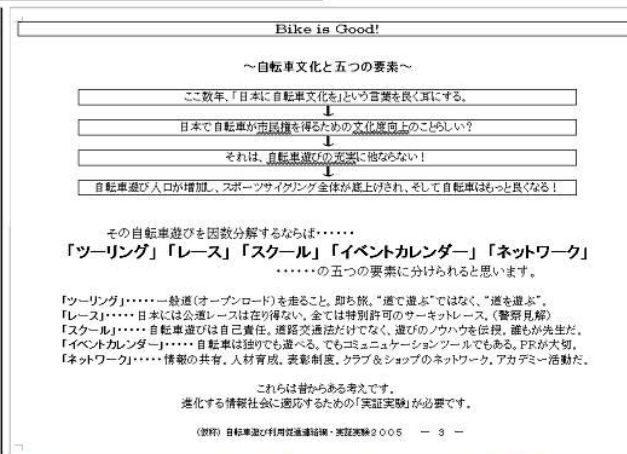
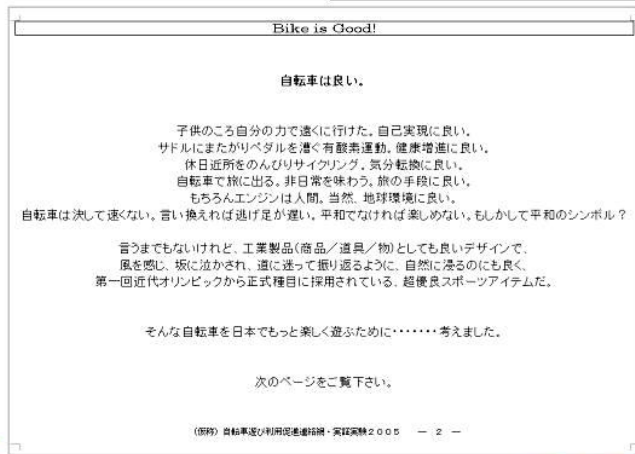
年齢性別車種不問で楽しめる運頼みルール

※詳細はP8～9をご参照下さい。

- 「ショップ主催の地域密着イベントの実施」
- 「観光レンタサイクルへの応用」
- 「サイクルイベントのサブメニュー」
- 「街づくりグループと協力した地域再々発見」
- 「子供や自転車利用者のマナー向上企画」

日常利用の延長のため、短期の仕込みが可能

# 1. Bike is Good! 『①自転車の良さ』



1

## ～転遊研とは～

2005年春に「ファストラーツーリング」の自主参加型企画「100×100(ハンドレッド・バイ・ハンドレッド)」を実験実施するにあたり、事務局設置や保険加入で主催者名が必要なため「(仮称)自転車遊び総合研究会」とネーミングしたもので、その略称が「転遊研」です。

その際の発起人が約10名、そして最初に連絡をしたコアメンバーが約70名、さらに2007年5月に期間実施した「自転車さんぽ◆◆時めぐり萩」の後援依頼を萩市にした際にカウントしたメンバーは約160名に達していました。

コアメンバーは、この実験企画立案以前の活動で知り合った仲間で、「ファストラーツーリング」や「MTBラリーレイド」や「MTBエンデューロ」などの関係者(参加者、スタッフ、媒体、輪界等)でした。

「100×100」は将来的な可能性はあるものの、100kmを100回走ろうという内容は、企画当初よりハードルの高さが指摘されていました。そのハードルを下げる作業内で、THT26の原形が生まれ、より多くの関係者と話す機会も得られ、街づくりグループや自転車NPO、さらに行政の担当者もメンバーに加わるようになりました。

但し、意思確認をした人もいれば、勝手にメンバーにしている人もいます。現在、人数はカウントしていませんが、多分200名は越えていると思われます。

§ ファストラーツーリングの世界最高峰の大会「パリ・ブレスト・パリ1200kmブルーベ」へ2003年8月に遠征参加し、またMTBラリーレイド日本オリジナルの「とれとればいく運営委員会」の緩やかな組織化で、マニア向けツーリングコンペティションの初期提案の目的を達成したと感じていました。

§ しかし一方、オープンロードで楽しむ「自転車遊び」は、認知度が思ったほどに無いとも感じていました。

§ そのため、窮余の策、実証実験として、日本の風土にあった自転車遊びを探ることにしました。2005年3月時点では、「(仮称)自転車遊び利用促進連絡網・実証実験2005」というネーミングで、実験のネタは、「ロングライド」、「エンデューロ」、「イベントブック」などで、「日常利用」は含まれていませんでした。



# 1. Bike is Good! 『②自転車の種類』



← デンマーク製の「ニホラ」  
日本でも市販されている  
「サイクルトレーラー」↓

§ 自転車には様々な種類や、使用目的があります。

§ 左上から、右渦巻き方向に・・・「子供車」→「一般車」→「クロスバイク」→「小径車」→「ロードレーサー」→「親子専用車」→「MTB・DHモデル」→「MTB・XCモデル」です。

※ツーリング車が無いのに後から気付きました……！

## Bike is Good !

2005年3月1日の企画提案書からの抜粋です。

### 自転車は良い。

子供のころ自分の力で遠くに行けた。自己実現に良い。サドルにまたがりペダルを漕ぐ、エンジンは人間。健康増進に良く、気分転換に良く、旅の手段に良く、地球環境にも良い。自転車は決して速くなく、平和でなければ楽しめない、もしかして平和のシンボル？

また、物・道具(工業製品・商品)としても良いデザインで、風を感じ、坂に泣かされ、道に迷って振り返るように、人と大地の間に在る、第一回近代オリンピックから正式種目に採用されている、超優良スポーツアイテムだ。

そんな自転車を日本でもっと楽しく遊ぶには・・・？

「日本に自転車文化を」という言葉を良く耳にする。

↓  
自転車が市民権を得るための文化度向上のこと？

↓  
それは、自転車遊びの充実に他ならない！

↓  
自転車遊び人口が増加し、  
スポーツサイクリング全体が底上げされ、  
そして自転車はもっと良くなる！

その自転車遊びは・・・「ツーリング」「レース」「スクール」「イベントカレンダー」「ネットワーク」・・・の五つの要素に分けられると思います。

「ツーリング」・・・一般道(オープンロード)を走ること。すなわち旅。“道で遊ぶ”ではなく“道遊ぶ”。

「レース」・・・日本には公道レースは在り得ない。全ては特別許可のサーキットレース。(警察見解)

「スクール」・・・自転車遊びは自己責任。道路交通法から、遊びのノウハウまでを伝授。誰もが先生だ。

「イベントカレンダー」・・・自転車は独りでも遊べる。でもコミュニケーションツールでもある。PRが大切。

「ネットワーク」・・・情報共有。人材育成。表彰制度。クラブ&ショップのネットワーク。アカデミー活動だ。

これらは昔からある考えです。進化する情報社会に  
適応するための「実証実験」が必要です。

## 2. 自転車は多面体



### “みち”を遊ぶ

- 移動の自由・・・保障されるべき権利だけでもルールもある。
- “みち”の種類・・・漢字でも「道」「途」「路」などがあるが、自転車の走れる「みち」と走れない「みち」がある。

### 歩行的利用と自動車の利用

- 警察見解・・・自転車の歩道走行問題で出た言葉。自転車は軽車両。
- 街中移動と郊外移動・・・歩行者に対して、自動車に対して、自転車はどこを走れば良いのだろう？

### 目線の変化

- ファストラン・・・より遠くへ、より速く。サイクリストのシンプルな快感。
- MTBラリーレイド・・・自然と対峙し仲間と助け合うラリー精神。
- 自転車さんぽ・・・生まれて初めての場所がこんな近所にあったの？故郷再々発見！

### 日常利用と非日常利用

- 個人の・・・、メーカーの・・・、団体の・・・。

§ 自転車には車種以外に、使用目的や立場の違いによって様々な側面があります。

§ 自転車が走る・利用する「道」には様々な種類がありますが、移動の自由(旅の自由)はどうなっているのでしょうか？ “旅”とは“みち”を遊ぶことだと思います。

§ 性格として「歩行的利用or自動車の利用」があり、立場も時と場合によって変化しています。

§ スポーツ使用の中でもスピードやエリアの違いで「街道走行の爽快感」「自然と対峙する達成感」「街なか再発見」などがあり、同じサドル上からでも風景や目線が変化しています。

§ 個人の利用目的に呼応した商品や関係団体の成り立ちに、「日常」と「非日常」の違いがあります。

3

## メニュー3点セット

日常利用の延長でオープンロードを楽しめる「THT26」は、街なかの路地を得意とする自転車遊びです。そのため、多くの関係者からの突っ込みのある、等身大の企画と言えます。

しかし「街道」や「森の道」など、不得意な“みち”もあり、「ファストラーツーリング」「MTBラリーレイド」「サイクルオリエンテーリング」を、ツーリングコンペティション・メニュー3点セットとして、継続提案していきたいと思えます。

◆**ツーリングコンペティション**・・・個人タイムトライアルからサイクルOLまで、何らかの成績の出るオープンロードでの自転車遊びの総称として提案しています。

◆**ファストラーツーリング**・・・個人で挑む耐久ランに始まり、クラブ行事のタイムトライアル、アメリカ生まれのセンチュリーラン、世界組織もあるブルベ、さらにサイクルマラソンやグランfondなどがあります。転遊研ではブルベ的な「さんいん1300」等を計画中です。

◆**MTBラリーレイド**・・・地図を読み、山道を辿り、仲間と協力して自然に挑む、「困難との遭遇」とも言われる最もエキサイティングな自転車遊びです。参加者はラリーリストと位置付けられ、そのスキルを総合的に試されます。転遊研では「とれとればいく」の普及版を某サイクルイベント内で熟成中です。

◆**サイクルオリエンテーリング**・・・マップリーディングとサイクリングの合体で、名前としてはポピュラーな自転車遊びです。転遊研では、自転車遊びの基本は地図読みと考え、偶然の産物「THT26」の可能性を今後も追求していきます。

**参加者の自己責任を前提にした、ツーリングコンペティションは、省スタッフ運営が可能です。それでも、自転車遊びの機会均等にはコースクリエイターの出現が望まれます。**